さん摩訶不思議の力に脱帽と感謝。

佐藤弘志君　佐藤さんのすばらしい人生哲学お願いします。

落合益夫君　アンダーソン空軍基地を視察させて頂き装備・知力・体力の大切さを再認識しました。企画してくださった山口さんに感謝します。

星野義男君　佐藤啓策さんの卓話に感謝して!!

米山忠俊君　佐藤啓策さんの卓話ありがとうございます。今村さん御苦労様です。

木宮隆君　ＢＯＸに協力、佐藤さん卓話ご苦労様です。

青木省一君　ＢＯＸに協力。

山崎勲君

丸山達夫君

佐藤文男君

ロータリー財団ボックス：

山上茂夫君　マルチプルＰＨＦ（５回目）達成。

Ｒ財団ボックス：（３月７日例会分）

山上茂夫君　今日は４７回目の結婚記念日で７４回目の私の誕生日です。晴れ男ですが今日も好天です。春ですね

卓　　話：　「私の人生哲学」佐藤 啓策会員

私が大事にしている言葉は色々ありますが、その中で最も大切にしているものは「命と信用」です。

私の家系は皆、短命です。祖父は28歳、父は55歳、母も兄も65歳で死亡しています。先祖で65歳超えているものはいません。従って私も65歳位までしか生きられないと思っていました。

父が55歳で死んでしまいましたので私の家は貧乏になりました。私は中学を卒業すると就職をし、夜高校へ通いました。５時に勤めを終え自転車で自宅に立ち寄り、握り飯を食って高校に通い、授業を終えると柔道部で練習しました。運動場に畳みを敷くとき皆が畳み１枚か２枚ずつ運んだ時、私は３枚ずつ運びました。

２年生の春に柔道部で五頭連峰を縦走するのに参加しました。部長は日本百名山を登っている久保富彦さんでした。私は張り切って頑張って１番速く縦走を終えました。しかしそれから数日後、尻が痛くなり高熱が出て肺炎になりました。熱は39度を超え半月以上下らず病院の先生は助かりませんのでと言うことで身内の人達に会わせさせられました。

その間、食べ物は一切食べていませんし、１日10回位注射を打ち、右手には点滴を行い続け、左手から輸血をし酸素吸入もしていました。意識はもうろうとして夢と現実の区別がつかない状態でした。

しかし生死をさまよいましたが運良く熱が下がりました。翌年「座骨骨髄炎」という骨が腐る病気

と判り手術しました。その結果、先生から「悪い部分は全部取り除けず、一部残ってしまいましたので再発するかも知れない」と言われました。高校の先生からは退学を勧められましたし、母からは「廃人のように静かに行けていけ」と言われました。しかし私は2年生、3年生の時、あと1日欠席すると落第というぎりぎりの出席率で落第せず卒業をしました。

同級生のアドバイスで事務系の方へ進むことにして、大学の通信教育を受けました。大学の3年生の時、夏スクーリングで上京していた際に富士山に登りました。そして海で泳ぎ自分の身体に自信を取り戻しました。

大学を卒業後色々な資格をとり、今日の仕事をしています。私が事務系の仕事をする事に決めた時、将来は自分で独立する事にしました。社会保険労務士として、日本一の事務所にしたいと考えました。それには徳川家康のように、又松下幸之助さんのように長く生きる必要があると考えた訳です。

そして信用の方ですが、命（健康）の次に大切なのは信用だと考えました。人に信用されなけらば仕事をもらえない。勤めてくれ人もいない、銀行も金を貸してくれない、ですから事業は成功しないと思いました。儲けという字は信者と書きます。信者を作ること、人に信用されること、その結果〝もうかる〟と言うことに成ると考えました。

信用については私の2つの実例を紹介します。私は35歳の時、開業しました。自宅で開業するつもりでいましたが駐車場もなかったので、燕市八王寺に将来の為に買っておいた土地に銀行から借り入れをして事務所を新築しました。そして保母をしていた妻を退職させて、収入の道を断って、スタートしました。翌年お客様が増えましたので自分を楽にしない為事務員を採用しました。

採用して2ヶ月後、私が前に勤務していました所のお客様である社長から私に電話相談がありました。会長さんが老齢年金を受給されていたのですが、その年金を5年分返せという手紙が社会保険庁より来たというのでした。当時存命の証明を市町村長からしてもらって送れという葉書が本人の所に来たのですが、それを期日までに出さないで返金させられるという事が全国的に多発していました。「私はそれはどうする事もできないですね」というふうにお知らせをしました。すると社長は「やはりそうですか」と言われて電話を切られました。社長は丁重に礼を言われて電話を切られたのです。

しかし私は私が賠償したいと思いました。全額は584万円でした。そして妻に話し、電話を頂いた後、30分後にはお客様の所へ伺い、その旨を申し出ました。社長はびっくり仰天され、とんでもない、気でも狂ったかと言わんばかりに専務と2人で私をなだめられましたが、私は多飲み続けて賠償させてもらうことにしました。社会保険庁へは一括返還せず、今後受給する年金を減額して返す方法をとり、減額分を私が働きその都度お金を届ける方法で行いました。その為私は家には帰らず事務所に泊まって目の覚めている間は仕事をしました。

もう一つの例は、バブルが崩壊した時です。その頃は経営コンサル会社も作ってその事業もやっていたのですが、それまで順調に受注をしていたのですが、全然受注が取れなくなりました。そこで同業者は大手も含めリストラをやって乗り切りを計っていました。その時私は悩みましたが、3人余る経